



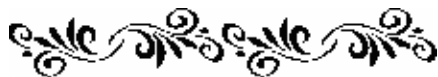
## ◆ 農機具小屋の驚き ◆

室内合奏団クレメンティア団長・フルート奏者 湯川和雄

室内合奏団クレメンティア友の会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。今年はいよいよ室内合奏団クレメンティアが皆さまの前にお目見えする年となります。

世話人の方々、市教委文化課の皆さん、いろいろな役割を買って出下さったサポーターや取りまとめ人の皆さんのおかげで準備は着々と(いや、少し遅ればせながらかな?)進んでおります。4月3日の第1回コンサートは皆さまの思いがいっぱいに詰まったコンサートとなるに違いありません。

さて、今日は私がとても大切にしているエピソード(実話だそうです)をご披露させてください。アメリカで活躍し、日本でも第一人者であるファゴット奏者から聞いた話です。



アメリカのどこか(忘れました)農業で生計を立てている小さな島、その船着場に数人のジャズメンがひょっこり降り立つ。それぞれ楽器を携えて、畑の中の無人の農機具小屋に入ってゆく。農場で立ち働く人の物音が遠くからでも聞こえるような静けさの中で、突然! ジャズの音が響き渡る。

何事が起きたのかと、人々は音のする方へ吸い寄せられるように集まる。農機具小屋で生々と鳴るジャズ音楽の響き…半ば茫然と聴き惚れている農夫たちに、演奏を終えたジャズメンたちは楽器をしまいながら「今度は×月×日に来るよ」と言い残して立ち去った。

さて約束のその日、例の農機具小屋に現れたジャズメンたちは驚いた。小屋いっぱい島中の人々が、今や遅しと彼らを待っていたのだ。演奏が終わると島の人々が言う。「今度はいつ来てくれる?」



「音楽会」の本来のあり方をシンプルに示したこの話は、演奏者と聴く人の関係を考える上で、私のコンサート観の原点となりました。

農機具小屋のジャズは周囲の静けさが必須条件でしたし、小屋内で聴ける人数も限られていたでしょうね。ところが私共のコンサートは、何の予告もなしにまず音を発する事から始まった農機具小屋での出来事とは異なって、1,000人のホールで予告も宣伝もする、つまり広くお知らせをしないと成り立ちません。その点では「農機具小屋の驚きと歓び」は今の私たちの生活環境では望めないおとぎ話かもしれません。

私共はよく曲目の解説をしてほしいと要望されます。ほとんどの演奏者はそれに応えようとするし、また、積極的に曲の内容やその周辺を説明して理解を得ようと努めます。それはいいじゃないでしょうか。

戦後日本の義務教育における音楽の教え方は、今に至るまで、まず知識から入るという方法をとりました。とりわけ「クラシック音楽」が、というより「クラシック音楽」のみがその教材となりました。ここ数年、やっと日本音楽やクラシック以外のジャンルが採り上げられるようになりましたが…。

音楽を「知識」から始めようとする長い間の習慣の中に、私共演奏家も聴衆も閉じこめられていたのではないのでしょうか。

さて、ここで申し上げている「知識」は「言語」を手段としています。「言語」は人類の持つ最も素晴らしい伝達方法の一つではありません。ただし、「言語」は人間の感性、情緒を含めた全てを表現することはできません。なぜなら「言葉に言い表せぬ…」「えも言われぬ…」とか言いますよね。「言語」自身がちゃんとそのことを認識しているではありませんか!



そこで皆さまに相談です。音楽をまず聴いてみませんか? 真っ白な状態で…、とはいっても人それぞれの人生、心理状態、体調の影響があるのは当然で、1,000人いれば1,000通りの感想が生まれる可能性があります。そこが音楽の楽しいところかもしれません。

繰り返しになりますが、4月3日のコンサート、何の準備も知識も要りません。(でも、演奏する側はうんと準備します!) まず聴いてみて下さい!

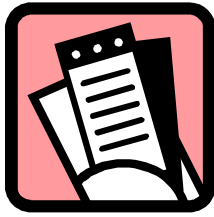
「農機具小屋の驚き」を、この我孫子で再現してみませんか? そして「我孫子市民会館の歓び」となりますように。

さて、次号ではバッハやモーツァルトの生きた時代について考えていることとお話しさせて下さい。皆さまの「驚き」を薄めてしまわないように気をつけます。

2005年が皆さまにとって良い年となりますように。



# 室内合奏団クレメンティア 第1回演奏会

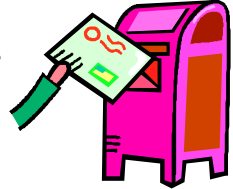


## ～ 特別先行予約のご案内 ～ 会員の前売りチケット発売開始です！

一般発売に先がけ、友の会会員の方に限り、演奏会のチケットをいち早くご予約・ご購入いただけます。しかも「友の会会員券」は、一般前売り券よりも500円引き！是非、この機会をご利用ください。

### ■□□ ご予約・ご購入方法 □□■

同封の申込ハガキに、必要事項を記入してご投函ください。  
事務局よりチケットと代金振込用紙をお送り致します。



日 時：2005年4月3日（日）14時開演（13時30分開場）

場 所：我孫子市民会館 大ホール

曲 目： C. P. E. バッハ シンフォニア 第5番 口短調 Wtoq.182-5  
J. S. バッハ ブランデンブルグ協奏曲 第5番 二長調  
    << ソリスト：Cem. 小林道夫 Fl. 湯川和雄 VI. 谷口哲朗 >>  
モーツァルト ディヴェルティメント 第3番 K138  
チャイコフスキー 弦楽の為のセレナード

入場料（全席自由）：

前売り：一般	3,500円
高校生以下	1,000円（事務局で取り扱います）
<b>友の会会員</b>	<b>3,000円（事務局で取り扱います）</b>
当日	4,000円



主催・お問い合わせ：室内合奏団クレメンティア友の会（Tel: 04-7188-1673 山下）

**★ご注意ください！** ◆「友の会会員券」は前売りのみとさせていただきます。  
◆未就学児の入場はご遠慮くださるようお願い致します。

## クレメンティアメンバーによるミニコンサート

【室内合奏団クレメンティア友の会会員ご招待】入場無料

日 時：2005年1月30日（日）18時開演

場 所：手賀沼湖畔アピスタ 1階ロビー（アピスタ・フェスタ）

曲 目：J. S. バッハ G線上のアリア  
モーツァルト フルート四重奏曲二長調  
ハイドン 弦楽四重奏曲「セレナード」より、セレナードとスケルツァンド  
シュターミッツ フルート協奏曲ト長調より 第1楽章

出 演：湯川 和雄（フルート）  
海和 伸子（ヴァイオリン） 中丸 まどか（ヴァイオリン）  
梯 孝則（ヴィオラ） 松本 ゆり子（チェロ）



### 友の会の仲間を一緒に広げませんか!

室内合奏団クレメンティア友の会事務局の活動にご参加くださる方を募集中です。ご自分の生活時間に合わせてできる範囲の簡単な事務作業(サポーター)から、事務局メンバーとなって一緒に友の会を運営していただける方(世話人)まで、友の会の活動にご一緒にいただける方を幅広く募っています。ご希望の方は、ぜひ事務局までご連絡ください。

友の会はみなさんの手でつくる組織です!

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

事務局へのお便りやお問い合わせは、下記まで  
お寄せ下さい。お待ちしております。

Eメール: clementia\_fan-owner@yahooogroups.jp

Tel・Fax: 04(7188)1673

〒270-1132 我孫子市湖北台2-7-25

室内合奏団クレメンティア友の会事務局 山下広之

※会員の皆さんがご住所やメールアドレスなどを変更した場合は、必ず事務局までお知らせください。

